

信濃町の埋蔵文化財

平成14年度町内遺跡発掘調査報告書

2003

信濃町教育委員会

例 言

- 1 本書は平成14年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う発掘調査、試掘調査、立会調査の報告書である。
- 2 調査は国および県からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
- 3 本書の執筆・編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
- 4 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。

出土資料の注記番号は次の通りである。川久保遺跡 [02KK]、狐久保遺跡 [02KT]、東裏遺跡 [02HU]、霊仙寺遺跡 [02RZ]。

- 5 調査体制は以下のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会

事務局 教育長 小林 豊雄
総務教育課長 佐藤謙一郎
総務教育係長 丸山佳代子

調査担当者 総務教育係 渡辺 哲也

発掘参加者

(川久保遺跡) 佐藤美佐江、佐藤道子、藤田桂子、松岡さとみ、松木圭子

(照月台遺跡) 田村 勇、東 貢、深沢政雄、藤田桂子

(狐久保遺跡) 小日向千代子、小林ミチエ、高田昭夫、高遠三治、滝沢敏雄、中村幸治、深沢政雄、藤田桂子、松岡さとみ

(東裏遺跡) 小林八重子、佐藤孝治、高橋是清、田村 勇、徳永 門、東 貢、平塚せつ子、藤田桂子、松岡さとみ、山崎啓一、若月あや子

(霊仙寺遺跡) 石田和子、大沢正志、落合春人、金子シズイ、佐藤孝治、渋沢ユキ子、高遠三治、田村 勇、徳永 門、中村幸治、藤田桂子、山崎啓一

整理参加者

佐藤美佐江、佐藤道子、菅谷澄子、藤田桂子、松岡さとみ、松木圭子、横山真理子

目 次

例 言	1
I 信濃町の環境と遺跡	1
1 自然的環境	1
2 歴史的環境	2
II 調査の内容及び成果	2
1 川久保遺跡	2
2 照月台遺跡	3
3 狐久保遺跡	3
4 東裏遺跡	4
5 仁之倉A遺跡	12
6 向原遺跡	13
7 霊仙寺遺跡	13

I 信濃町の環境と遺跡

1 自然的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県と県境を接している。町域は東西方向に概ね3つの地形に分けることができる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の堆積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中に位置し、およそ7万年前にその原形ができたといわれている。西部は第四紀中・後期更新世の飯縄山、黒姫山の火山地形が占める。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖



図1 調査地の位置 (国土地理院発行の5万分の1の地形図「妙高山」「戸隠」を使用)

1. 川久保遺跡
2. 照月台遺跡
3. 狐久保遺跡
4. 東裏遺跡
5. 仁之倉A遺跡
6. 向原遺跡
7. 霊仙寺遺跡

沼、河川堆積物や泥流堆積物からなる丘陵や段丘、低湿地などになっている。関川水系と千曲川（信濃川）水系の両者を分かつ分水嶺は信濃町柏原地区に位置し、山間地では珍しい平坦な高原状の地形が広がっているため、内陸部から日本海へ通じるルートとして古くから利用されていたと考えられる。人々の居住域の標高は700m前後で、日本海側の気候に入り、冬期は多雪で、夏期は比較的冷涼である。

2 歴史的環境

信濃町は日本海側と内陸部とをつなぐ交通の要所であり、江戸時代には北国街道が整備され、野尻、柏原、古間には宿場が設けられていた。また、関川を境として信濃と越後の国境という歴史的な地理的特徴を有している。現在町内には173ヶ所の遺跡が確認されているが、時代により遺跡数の変遷に次のような特徴が見出せる。1) 旧石器時代の遺跡が集中する。2) 縄文時代では草創期、早期、前期の遺跡は複数存在するが、中期以降の遺跡は少なくなる。3) 縄文時代中期以降、弥生時代、古墳時代の遺跡はわずかで、平安時代になると遺跡数が増加する。

II 調査の内容及び成果

1 川久保遺跡

下水道管敷設工事は幅約90cmで40mにわたって掘削することになっており、その範囲に150×80cmのトレンチを6ヶ所設置した。調査の結果、遺物43点が出土したが遺構は確認できなかった。遺物は旧石器時代、平安時代、近代のものが混在して黄褐色土を含む黒褐色土から出土しており、攪乱されていることがわかった。旧石器時代の遺物では珪質頁岩製の石刃が1点出土したが、周縁には多数の新しい剥離痕（ガジリ）が見られた。遺構がなく、広範囲で攪乱を受けていることから本調査は必要ないと判断した。

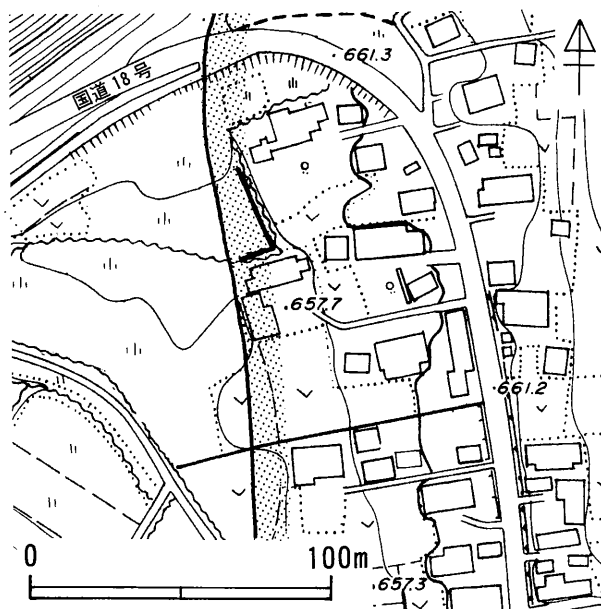


図2 川久保遺跡の調査範囲（黒くぬった範囲）

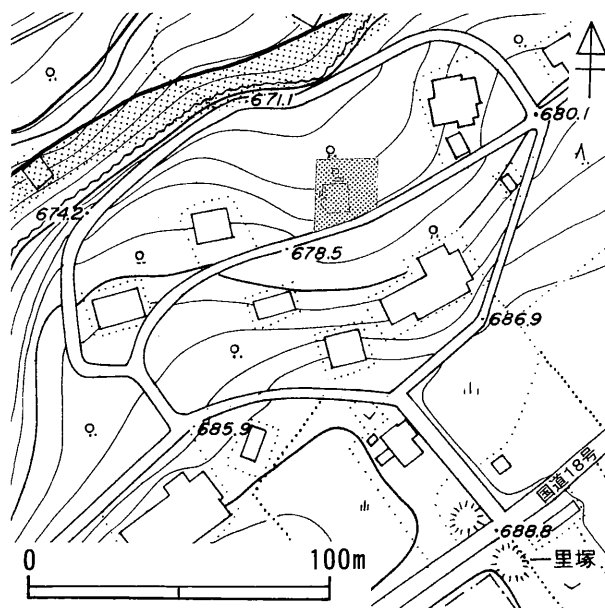


図3 照月台遺跡の調査範囲

表1 調査の概要一覧（番号は図1に対応）

番号	遺跡名	所在地	事業主体	原因	調査の種類	調査面積 (㎡)	調査期間	遺跡の時代	出土遺物点数	特記事項
1	川久保	大字野尻916-3	信濃町 (下水道課)	下水道管敷設	試掘調査	7.2	11/18- 11/20	旧石器・平安・近世	43	遺構なし。遺物は攪乱層から出土。
2	照月台	大字野尻520-25	個人	住宅建設	試掘調査	8.5	10/2- 10/3	旧石器	0	遺構・遺物なし。
3	狐久保	大字野尻371	個人	住宅建設	試掘調査	38	4/22- 4/26	弥生	103	弥生土器出土。遺構なし。
4	東裏	大字柏原353-9 ほか	個人	住宅建設	発掘調査	48	5/14- 5/22	旧石器・近世	264	神山型彫器を含む石器群を確認。
5	仁之倉A	大字柏原4388-1 ほか	黒姫和漢薬研究所	工場建設	立会調査	236 (工事面積)	10/4	縄文	0	遺構・遺物なし。
6	向原	大字平岡223-1 ほか	信濃町 (保健福祉課)	介護予防施設建設	立会調査	269 (工事面積)	10/23	縄文	0	遺構・遺物なし。
7	霊仙寺	大字大井2861-2 ほか	牟礼村 (建設水道課)	ため池建設	試掘調査	186	11/5- 11/20	縄文・平安	18	遺物確認。遺構は未確認。来年度本調査必要。

2 照月台遺跡

既存建物の周辺と浄化槽設置予定の箇所において試掘調査を実施した。トレンチを3ヶ所発掘したが、遺構、遺物は検出されなかった。

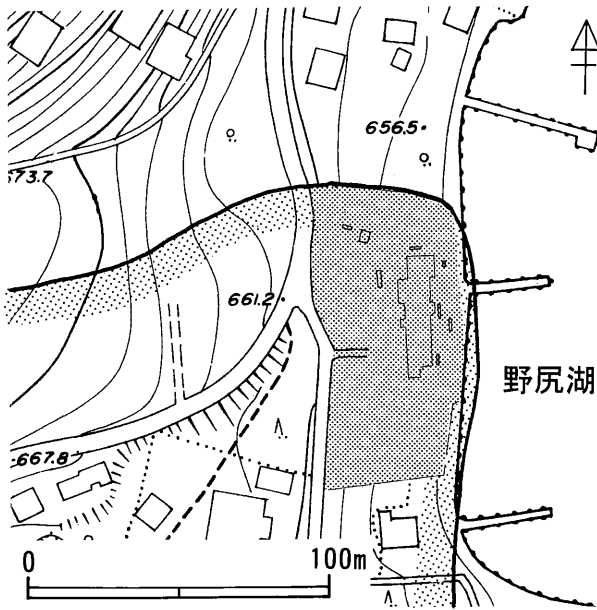


図4 狐久保遺跡の調査範囲

3 狐久保遺跡

既存建物の周囲と池の建設予定地について試掘用トレンチを設け、調査をおこなった。トレンチを8ヶ所設定して調査し、トレンチ2とトレンチ4から遺物が出土したためにその周囲を拡張した。トレンチ2からは弥生土器が礫の集中域から出土した。礫は握り拳大から人頭大で、火を受けた痕跡は認められず、人が持ち込んだもの、自然に流れ込んだものの両方の可能性を考えておきたい。トレンチ4も同様に礫と土器片が出土したが、ここでは陶磁器も混在していた。弥生土器は47点が出土した。表

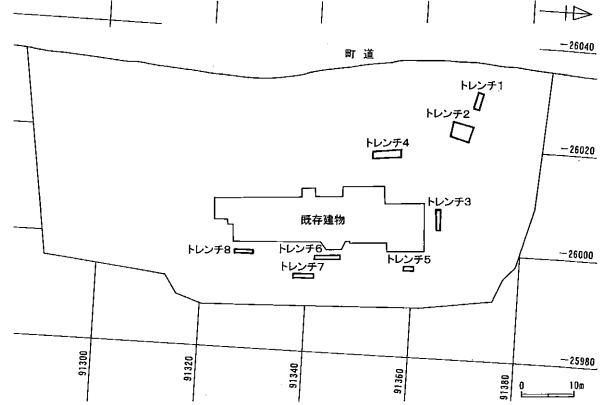


図5 狐久保遺跡の試掘トレンチの位置

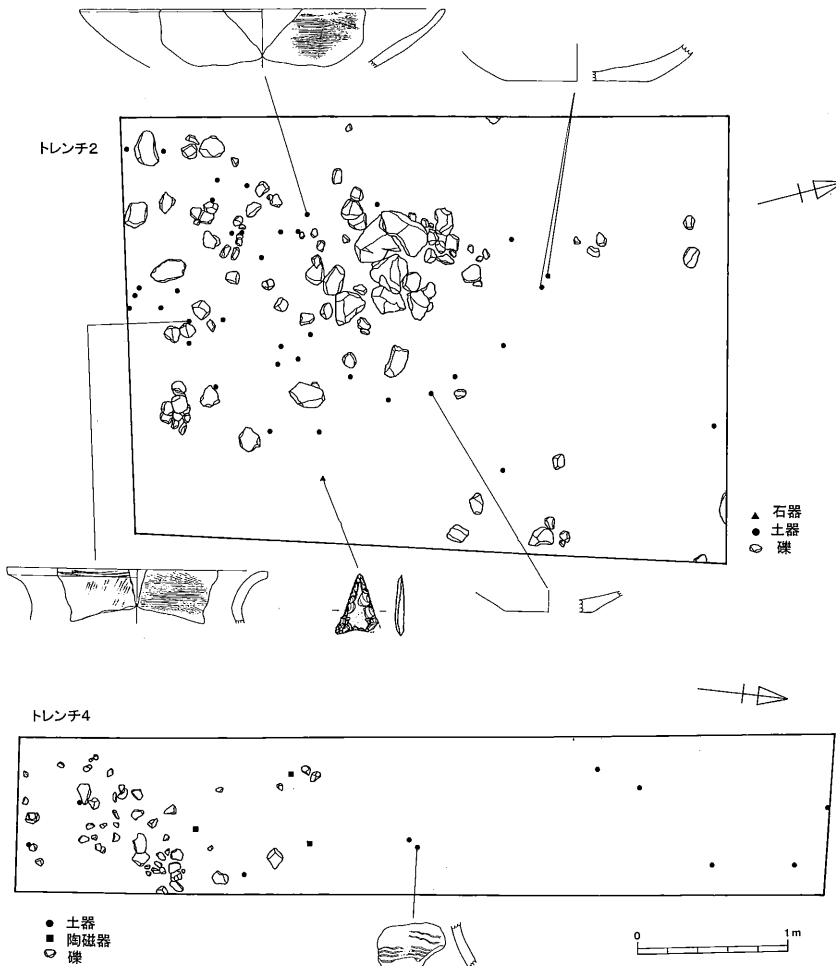
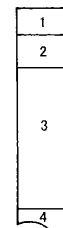


図6 狐久保遺跡の遺物分布

面の磨耗が著しく、時期の限定には根拠が乏しいが、北信濃に弥生文化が流入してくる弥生時代中期以降の所産としておきたい。



- 1: 表土
- 2: 客土 暗褐色土に褐色土が混ざる
- 3: 黒褐色土(柏原黒色火山灰層)
褐色スコリアを少し含む 粘性なし、しまりあり
- 4: 黄褐色シルト 褐色スコリアを多く含む
粘性なし、しまりあり

図7 狐久保遺跡の基本層序

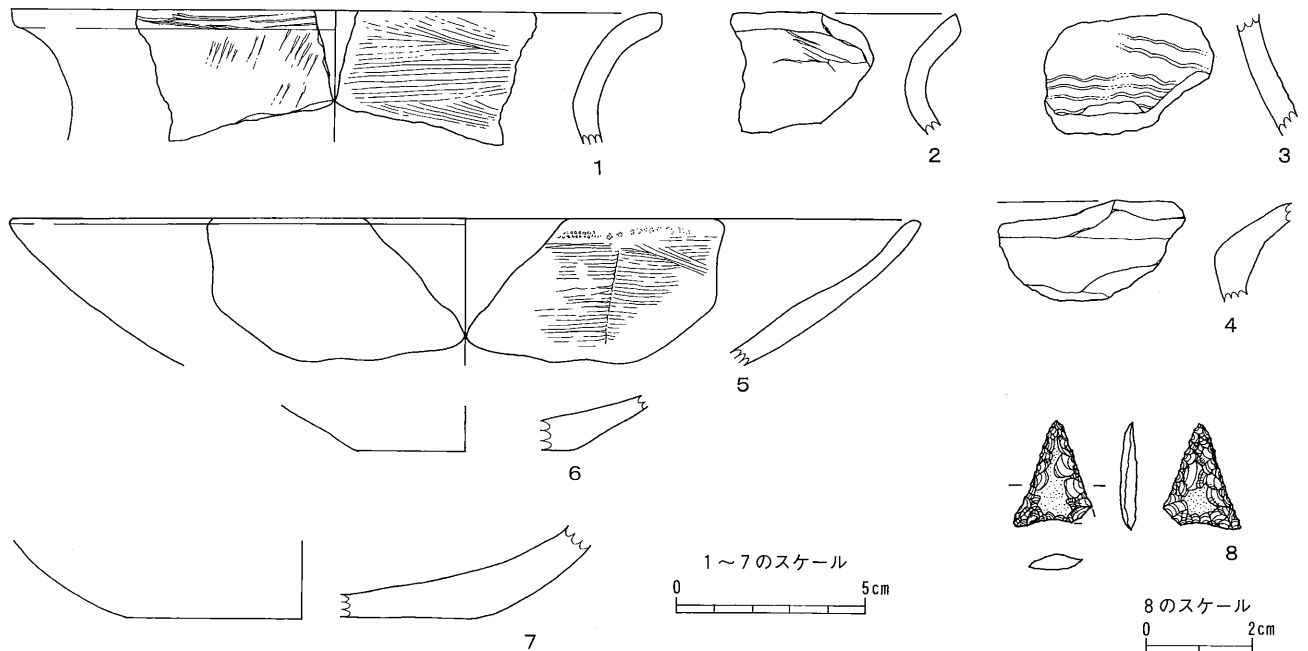


図8 狐久保遺跡の出土遺物

4 東裏遺跡 (2002個人住宅地点)

東裏遺跡内に計画された個人住宅建設に先だって、住宅建設によって破壊される可能性のある基礎工事部分と浄化槽工事部分について発掘調査を実施した。なお、浄化槽部分については遺物の包含層を掘りきっているが、基礎部分は工事で掘削する予定の深さまでに留めており、遺物包含層を完掘していない。調査により石器260点が4層を中心に出土した。この内106点を図化し、特徴を表2、3に示した。ここに示した石器群は神山型彫器を組成する石刃素材の石器群である。典型的な杉久保型ナ

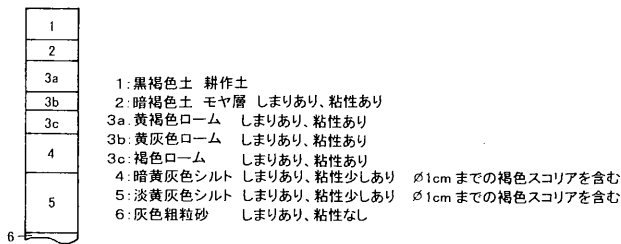


図9 東裏遺跡の基本土層

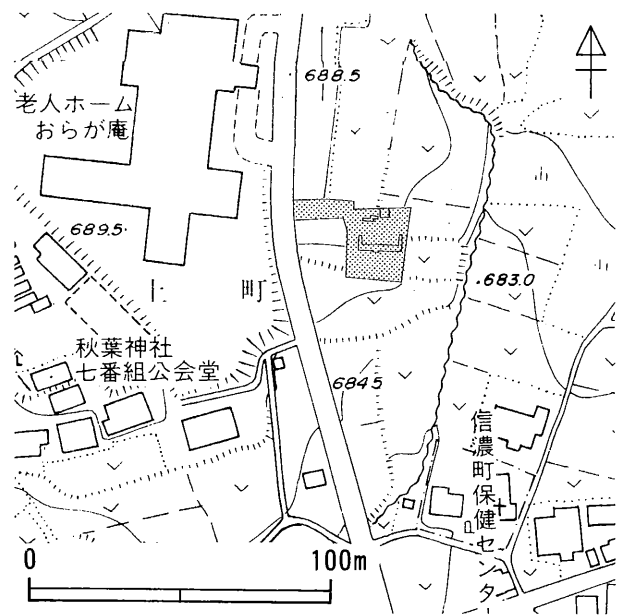


図10 東裏遺跡の調査範囲

表2 東裏遺跡の主な出土遺物一覧 (1)

図番号	遺物番号	遺物名	石材	標高	出土層位	層位中の位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	打面種類	折断の有無	特徴
1	94	ナイフ形石器	SS	687.450	4	中	3.1	1.6	0.7	2.01	—	—	石刃素材。打面を基部側。
2	145	ナイフ形石器	Ob	686.680	4	中	3.6	1.2	0.6	1.48	○	—	石刃素材。基部。両側縁に二次加工。
3	67	ナイフ形石器	Ob	686.910	4	中	1.2	0.9	0.4	0.33	○	—	先端部。一側縁に二次加工。
4	210	ナイフ形石器	Ob	687.150	4	上	2.7	1.2	0.6	1.18	—	—	石刃素材。基部の両側縁に弱い二次加工。
5	112	ナイフ形石器	An	687.420	3c	上	1.5	4.3	0.8	3.21	—	—	横長剥片素材。素材の背面へ二次加工。
6	148	ナイフ形石器	Ob	686.800	4	中	2.0	1.9	0.7	1.18	—	—	台形状。背面と腹面に二次加工。
7	48	彫器	Ob	686.790	4	下	4.2	1.8	0.6	3.24	—	—	石刃素材。刃部再生3回。刃先角88度。
8	8	彫器	Ob	686.650	4	上	2.2	1.3	0.8	1.27	○	—	石刃素材。神山型。刃部側面に微細剥離痕。
9	115	彫器	Ob	687.270	4	上	3.5	2.3	0.9	5.35	—	—	神山型。刃先角58度。
10	93	彫器	TS	687.520	4	上	3.4	6.3	1.8	36.31	—	—	上から1条、下から2条の彫刀面作出。
11	130	彫器	An	687.890	3c	中	4.5	2.4	1.0	9.22	—	—	神山型。刃先角59度。上に2条、下に2条。
12	123	彫器	Ob	687.540	4	上	2.0	2.5	0.9	6.08	○	—	素材の側面を打面に、直交方向に彫刀面。
13	222	彫器	Ob	686.990	4	中	2.0	2.9	0.9	4.42	—	—	素材の腹面側に彫刀面作出。
14	69	彫器	Ob	687.000	4	中	4.4	4.8	1.2	15.55	—	—	神山型。腹面に打面調整。刃部は欠損。
15	72	削片	SS	687.700	4	上	3.2	1.0	0.4	0.73	—	—	背面に1条の槌状剥離痕。剥離角70度。
16	9	削片	Ob	686.830	3a	上	1.1	0.4	0.3	0.09	—	—	打面調整あり。剥離角97度。
17	50	削片	Ch	686.820	4	中	5.6	1.3	1.2	5.91	—	—	上下両端が欠損。微細剥離痕あり。
18	41	楔形石器	Ja	686.920	4	上	1.9	2.2	0.6	2.43	—	—	残核素材。
19	256	石刃	Ob	686.830	4	中	4.7	1.7	0.7	3.33	複	—	石刃の末端に微細剥離痕あり。剥離角88度。
20	99	剥片	An	687.500	4	上	5.5	5.8	1.6	34.19	—	—	打面側の腹面に平坦剥離あり。

表3 東裏遺跡の主な出土遺物一覧(2)

図 番号	遺物 番号	遺物名	石材	標高	出土 層位	層位中 の位置	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	打面 種類	折断の 有無	特 徴
21	12	石刃	Ob	686.690	4	中	3.2	1.1	0.5	0.80	調整	○	末端に微細剥離痕あり。
22	203	石刃	Ob	687.160	4	上	5.2	1.5	0.7	3.01	調整	○	剥離角82度。
23	139	石刃	Ob	686.680	4	上	4.5	1.2	0.7	1.78	調整	○	剥離角82度。頭部調整あり。
24	117	石刃	Ob	687.400	4	上	4.6	1.3	0.9	2.22	複	○	稜成形。剥離角75度。頭部調整あり。
25	102	石刃	Ob	687.640	4	中	3.7	0.6	1.0	0.70	○	○	打面側腹面にはじけ。
26	77	剥片	Ob	687.600	4	上	2.9	1.9	0.3	1.12	○	○	上下両端欠損。
27	190	剥片	Ob	686.920	4	上	2.8	1.3	0.4	1.15	○	○	上下両端欠損。
28	60	剥片	Ob	687.020	4	上	1.7	1.3	0.5	1.00	○	○	上下両端欠損。
29	126	剥片	Ob	687.930	1		1.6	1.4	0.6	0.67	○	○	上下両端欠損。
30	211	石刃	TS	687.150	4	上	7.3	2.3	0.8	8.81	単	○	剥離角86度。
31	107	石刃	TS	687.370	4	中	6.0	1.5	0.7	3.64	○	○	打面側欠損。
32	200	石刃	TS	687.100	4	上	1.5	1.1	0.3	0.49	単	○	剥離角88度。
33	88	石刃	TS	687.660	4	上	11.0	1.3	1.4	12.05	単	○	剥離角123度。頭部調整あり。
34	194	剥片	Ch	686.830	4	中	1.8	0.8	0.4	0.34	複	○	剥離角101度。
35	146	剥片	An	686.800	4	上	1.4	0.9	0.4	0.26	○	○	上下両端欠損。
36	250	剥片	Ob	686.780	4	中	3.2	2.2	0.5	2.73	調整	○	剥離角82度。頭部調整あり。
37	20	剥片	Ob	686.860	4a		2.9	2.1	1.2	5.38	調整	○	剥離角84度。末端欠損。
38	113	剥片	Ob	687.220	4	上	3.7	1.9	1.0	3.88	調整	○	剥離角87度。末端欠損。
39	80	剥片	An	687.810	1		2.5	4.3	0.8	8.15	複	○	横長剥片。剥離角123度。末端欠損。
40	84	剥片	An	687.490	4	中	2.0	4.3	1.0	7.73	複	○	横長剥片。剥離角106度。頭部調整あり。
41	78	剥片	Ob	687.610	4	上	3.9	3.4	0.9	10.06	調整	○	剥離角88度。末端欠損。
42	109	剥片	Ob	687.470	4	上	4.3	4.2	2.0	21.56	○	○	上下両端欠損。
43	76	剥片	TS	687.570	4	上	7.6	5.3	1.0	33.48	単	○	剥離角94度。頭部調整あり。
44	81	剥片	An	687.700	1		5.2	4.4	1.2	19.32	○	○	上下両端欠損。
45	120	剥片	Ch	686.940	4	中	6.2	3.6	1.3	13.48	調整	○	剥離角104度。
46	121	剥片	An	687.530	4	上	3.5	1.6	1.4	5.77	○	○	上下両端欠損。
47	235	剥片	Ob	686.690	4	中	3.6	2.4	0.7	3.94	礫	○	剥離角106度。
48	215	剥片	Ob	687.050	4	中	3.6	3.0	1.0	6.31	○	○	彫器の破損品の可能性あり。
49	110	剥片	Ob	687.430	4	上	3.4	2.0	0.8	1.85	○	○	上下両端欠損。
50	122	剥片	Ob	687.560	4	上	2.5	3.3	0.9	3.22	○	○	微細剥離痕あり。
51	55	剥片	Ob	686.880	4	中	2.0	2.6	0.8	1.52	○	○	○
52	238	剥片	Ob	686.650	4	中	2.6	2.2	0.6	2.12	○	○	打面側欠損。
53	52	剥片	Ob	686.910	4	中	1.4	1.1	0.4	0.30	単	○	剥離角101度。末端欠損。
54	108	剥片	Ob	687.330	4	上	2.6	1.2	0.8	1.34	点	○	剥離角103度。頭部調整。末端蝶番剥離。
55	73	剥片	Ob	687.680	4	上	2.8	1.6	0.7	1.15	○	○	末端欠損。
56	11	剥片	Ob	686.700	4	上	2.0	1.4	0.5	0.74	○	○	○
57	56	剥片	Ob	686.810	4	中	1.9	2.7	0.8	1.88	点	○	剥離角96度。
58	116	剥片	Ob	687.270	4	上	1.4	1.7	0.7	0.64	単	○	剥離角101度。
59	204	剥片	Ob	687.100	4	上	1.3	1.5	0.6	0.32	○	○	○
60	153	剥片	Ob	686.840	4	上	1.4	2.7	0.6	1.08	単	○	剥離角128度。
61	16	剥片	Ob	686.780	3c		0.9	1.1	0.7	0.25	単	○	剥離角103度。頭部調整あり。
62	218	剥片	Ob	687.050	4	上	1.3	2.7	0.7	0.91	礫	○	剥離角100度。
63	90	剥片	Ob	687.560	4	上	1.7	2.2	0.9	1.24	○	○	○
64	208	剥片	Ch	687.060	4	中	3.7	3.1	0.9	8.00	礫	○	剥離角98度。
65	229	剥片	Ch	686.680	4	中	1.7	2.7	0.6	2.58	礫	○	剥離角109度。頭部調整あり。
66	168	剥片	Ch	686.910	4	上	1.2	1.9	0.3	0.41	単	○	剥離角93度。
67	54	剥片	Ch	686.850	4	中	2.2	2.1	0.7	2.92	礫	○	剥離角118度。
68	104	剥片	Ch	687.530	4	中	1.6	2.3	0.8	1.40	礫	○	剥離角105度。
69	49	剥片	Ch	686.790	4	下	1.7	2.6	0.7	1.99	単	○	剥離角85度。
70	79	剥片	Ch	687.550	4	中	2.3	2.1	0.9	2.51	複	○	剥離角112度。
71	175	剥片	An	686.960	4	上	5.0	5.9	1.2	13.83	調整	○	剥離角102度。
72	182	剥片	An	686.890	4	中	1.8	1.5	0.3	0.53	調整	○	剥離角102度。頭部調整あり。
73	158	剥片	An	686.880	3a		1.3	1.2	0.4	0.26	調整	○	剥離角99度。
74	28	剥片	An	686.930	4	上	1.1	2.2	0.4	0.56	調整	○	剥離角136度。頭部調整あり。
75	19	剥片	An	686.910	3b		2.6	2.1	0.4	1.48	複	○	剥離角139度。頭部調整あり。
76	241	剥片	An	636.830	5	上	2.5	2.0	0.4	0.84	複	○	剥離角120度。
77	242	剥片	An	686.870	4	下	3.8	3.0	0.6	2.67	複	○	剥離角87度。
78	32	剥片	An	686.900	3c		2.3	2.2	0.8	1.89	複	○	剥離角100度。頭部調整あり。
79	225	剥片	An	686.860	4	中	1.5	2.5	0.6	1.01	複	○	剥離角97度。
80	184	剥片	An	687.030	3a		2.8	1.6	0.4	0.88	複	○	剥離角95度。
81	30	剥片	An	686.880	4	中	2.3	2.6	0.4	0.97	複	○	剥離角97度。
82	23	剥片	An	686.860	4	上	2.3	2.7	0.6	1.49	単	○	剥離角142度。頭部調整あり。
83	21	剥片	An	686.790	4	中	2.1	1.6	0.8	0.51	単	○	剥離角145度。
84	174	剥片	An	686.900	4	中	2.8	2.2	0.6	2.24	単	○	剥離角140度。頭部調整あり。
85	176	剥片	An	686.960	4	上	2.8	2.2	0.6	1.08	単	○	剥離角142度。頭部調整あり。
86	164	剥片	An	686.940	4	上	3.8	2.4	0.7	3.25	単	○	剥離角129度。頭部調整あり。
87	188	剥片	An	686.960	4	上	1.5	2.2	0.5	0.73	単	○	剥離角128度。頭部調整あり。
88	226	剥片	An	686.870	4	中	4.4	3.1	0.7	5.26	単	○	剥離角114度。
89	167	剥片	An	686.930	4	上	3.7	3.5	0.7	7.14	単	○	剥離角113度。
90	170	剥片	An	686.910	4	上	2.1	3.1	0.5	2.68	単	○	剥離角110度。
91	253	剥片	An	686.850	5	上	1.7	2.3	0.5	0.68	単	○	剥離角104度。
92	39	剥片	An	687.010	3c		3.7	3.0	0.6	4.78	単	○	剥離角149度。
93	189	剥片	An	686.980	4	上	3.2	4.4	0.7	7.42	単	○	剥離角158度。
94	172	剥片	An	686.910	4	中	2.9	1.5	0.6	5.51	○	○	○
95	198	剥片	An	687.140	3c		3.9	2.1	0.5	3.28	線	○	剥離角88度。頭部調整あり。
96	186	剥片	An	686.890	4	中	2.6	1.7	0.6	0.84	線	○	剥離角100度。
97	263	剥片	An	686.850	4	中	1.2	1.7	0.4	0.45	線	○	剥離角125度。
98	243	剥片	An	686.870	4	下	1.2	1.8	0.4	0.52	線	○	剥離角93度。
99	185	剥片	An	687.200	3a		2.3	2.2	0.7	1.99	点	○	剥離角104度。頭部調整あり。
100	165	剥片	An	686.960	3a		2.2	2.3	0.5	1.02	点	○	剥離角97度。
101	162	剥片	An	686.930	4	上	1.6	2.2	0.4	0.72	点	○	剥離角112度。
102	173	剥片	An	686.890	4	中	1.6	1.6	0.6	0.51	点	○	剥離角137度。
103	261	剥片	An	686.840	4	中	3.6	4.1	0.6	5.38	○	○	○
104	132	石核	Ch	687.940	2	中	3.5	4.1	2.6	41.22	○	○	剥離角90度。
105	137	石核	Ob	686.660	4	上	3.2	2.7	1.4	6.89	○	○	剥離角117度。
106	71	石核	Ch	687.660	3c		2.9	1.7	1.4	6.48	○	○	剥離角94度。

※石材…Ob-黒曜石、An-無斑晶質安山岩、SS-珪質頁岩、TS-凝灰質頁岩、Ch-チャート、Ja-鉄石英
打面種類…調整-調整打面、単-単剥離面打面、複-複剥離面打面、線-線打面、礫-礫面打面

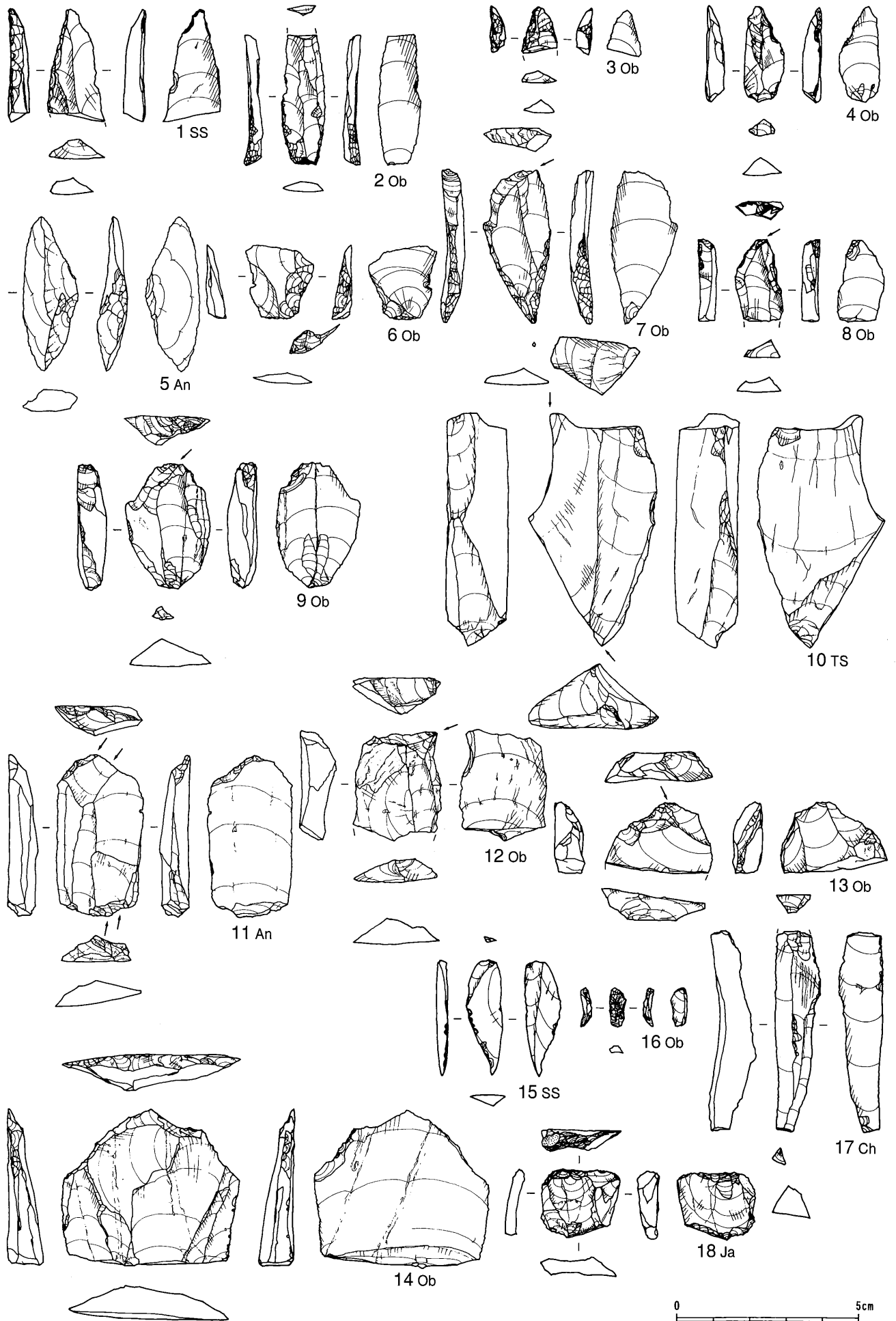


図11 東裏遺跡の主な出土遺物(1)

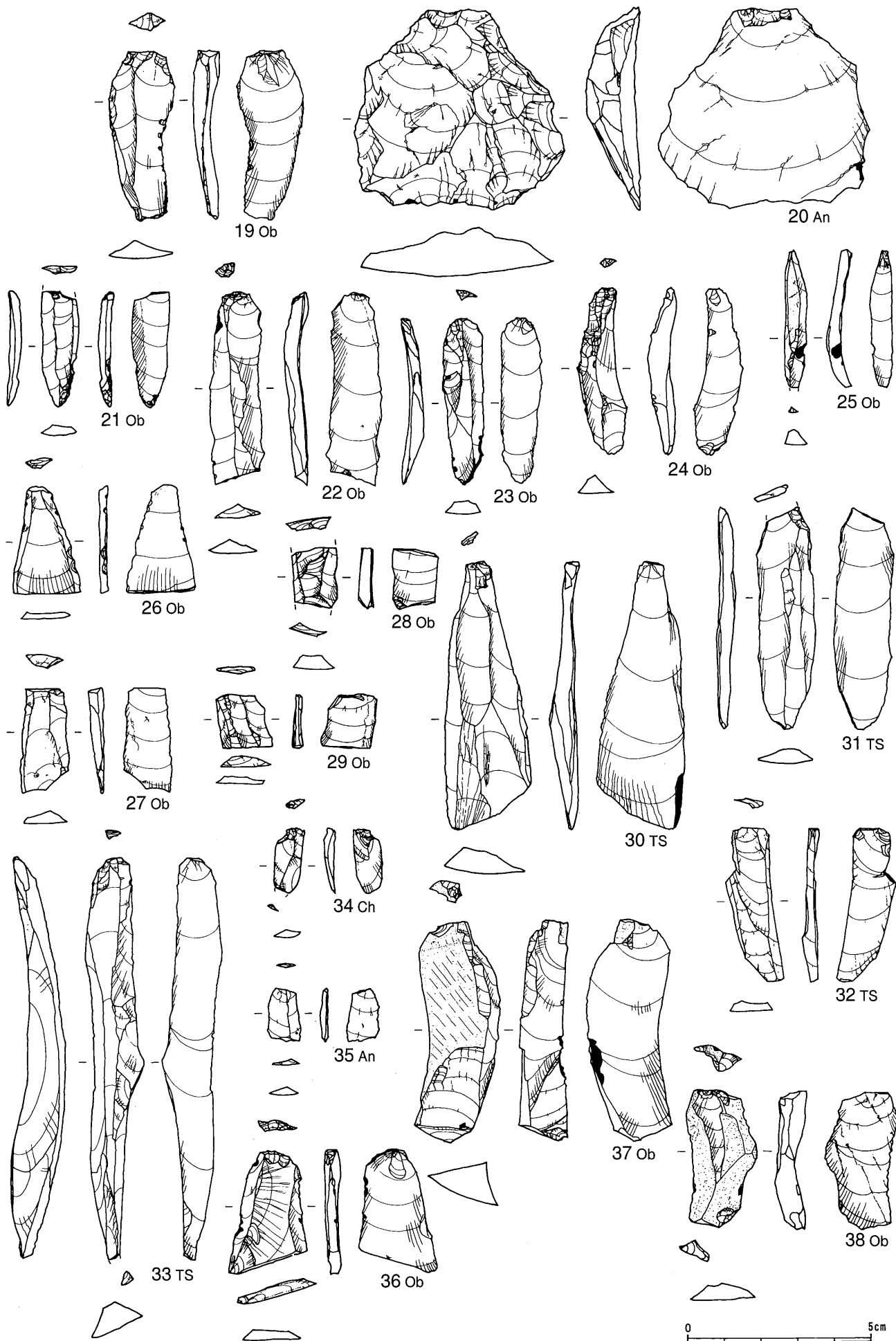


図12 東裏遺跡の主な出土遺物（2）

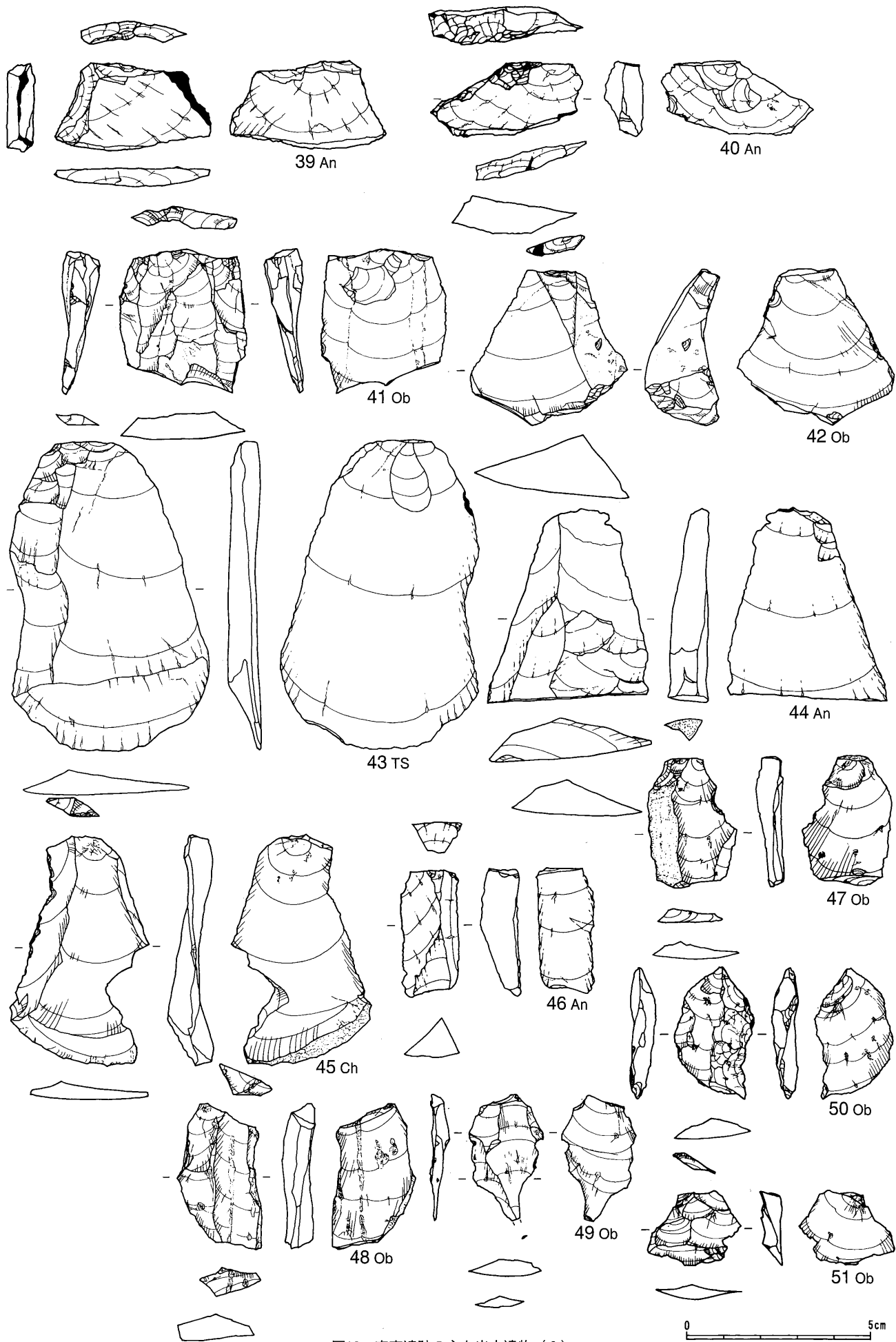


図13 東裏邊跡の主な出土遺物（3）

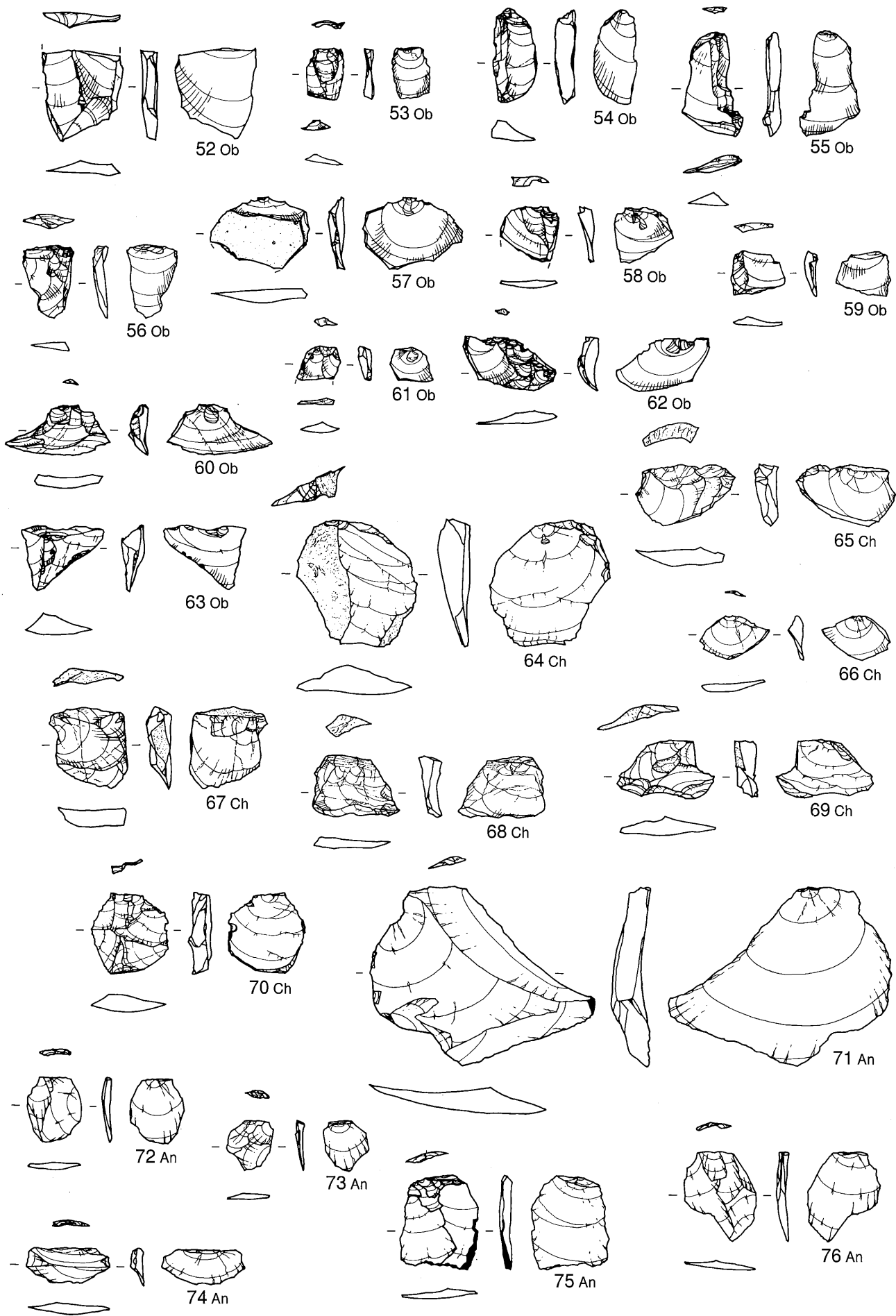


図14 東裏遺跡の主な出土遺物(4)

0 5cm

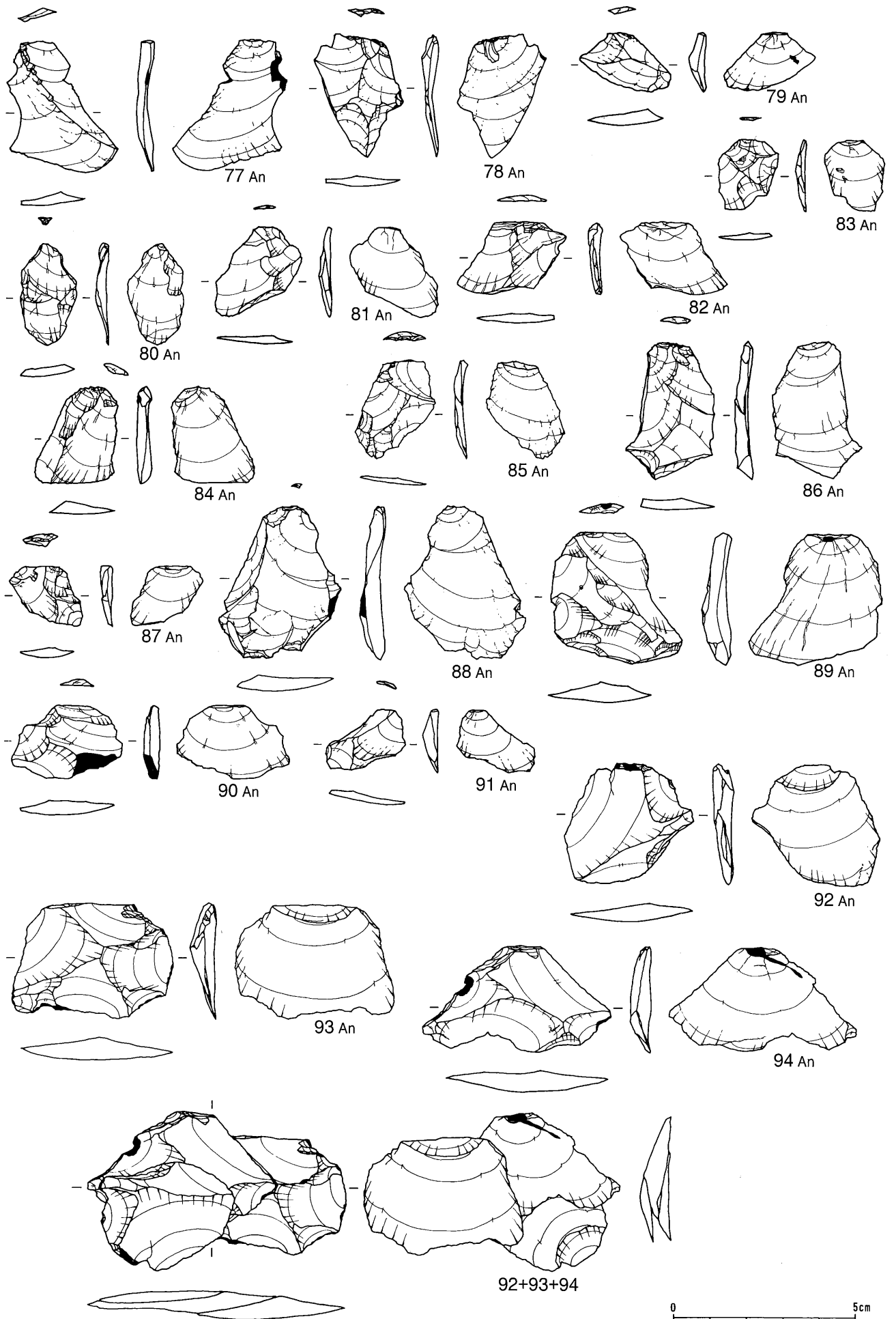


図15 東裏遺跡の主な出土遺物（5）



※図11～16で遺物の番号の後ろに石材の略号を付けた。略号の説明は表3の欄外を参照されたい。発掘時についた新しい剥離痕は、黒くぬりつぶして表現した。

図16 東裏遺跡の主な出土遺物（6）



東裏遺跡の石器出土状況(近景)①



東裏遺跡の石器出土状況(近景)②

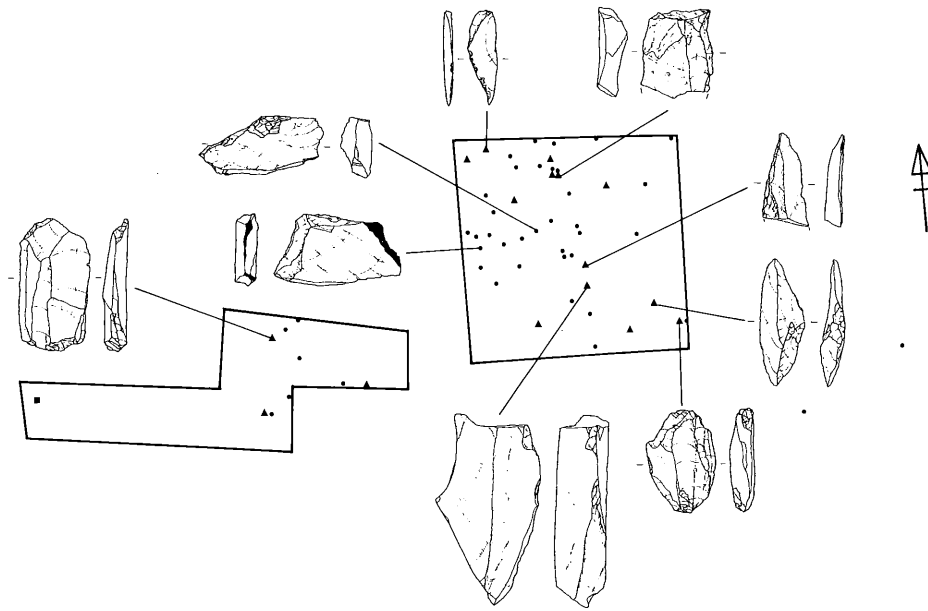


図17 東裏遺跡の遺物分布

イフ形石器は組成していない。無斑晶質安山岩素材で剥離角が鈍角の幅広の剥片を剥離する技術が見られる (71~103)。また、横長剥片の剥離技術と横長剥片を素材としたナイフ形石器 (5, 39, 40) も存在する。こうした組成から、杉久保型ナイフ形石器が組成される時期よりもやや先行した時期と位置づけておきたい。

5 仁之倉A遺跡

現在駐車場となっている部分に工場の建設が計画された。この位置が遺跡の境界付近であること、駐車場の建

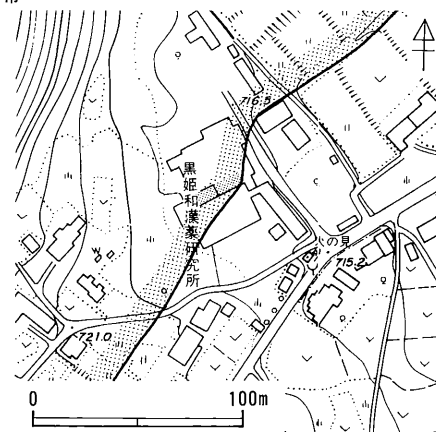
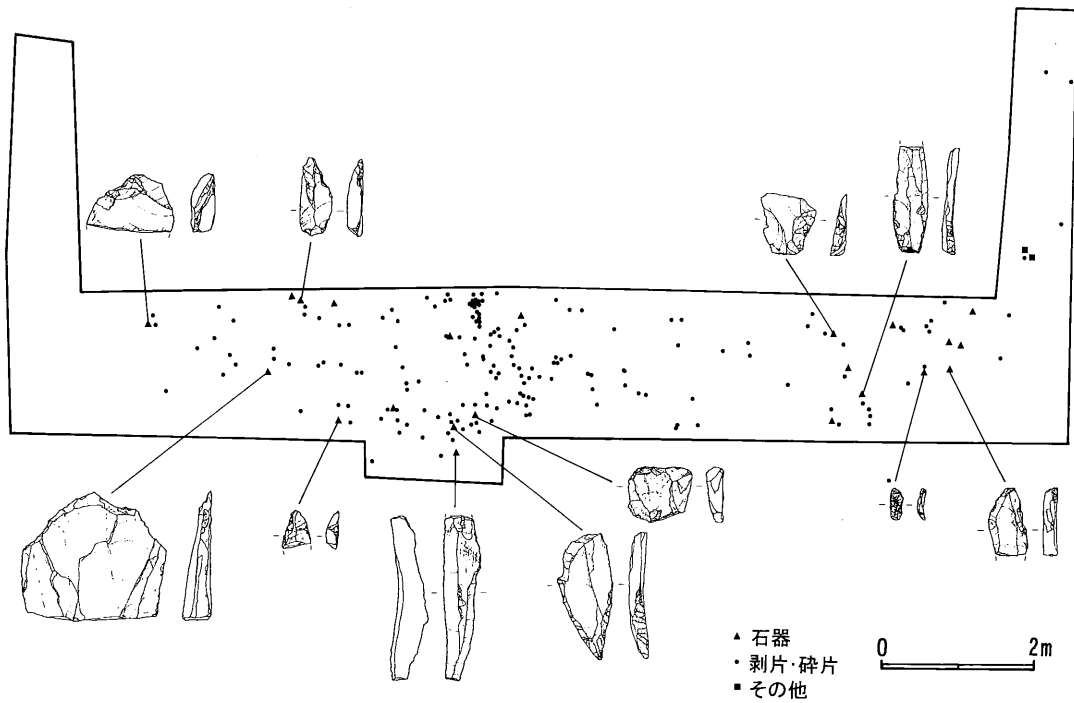


図18 仁之倉A遺跡の調査範囲

設時に土地の改変がおこなわれている可能性が高いことなどから工事立会とした。バックホーによる慎重な掘削に立ち会ったが、遺物包含層の黒色土（柏原黒色火山灰層）がすでにないことが分かり、工事による遺跡への影響はないことを確認した。

6 向原遺跡

信濃町の運動公園ふれあい広場の駐車場に介護予防施設の建設が計画された。この駐車場は傾斜地を埋め立てて造成されており、埋め立てにより遺跡が保護されている場所である。平均2mの高さで埋め立てられており、計画の建物の基礎はこの埋め立て土の中におさめる設計で、浄化槽など一部深く掘り下げる部分についてのみ工事立会をおこなった。

バックホーによる慎重な掘削に立ち会ったが、遺物、遺構は検出されなかった。

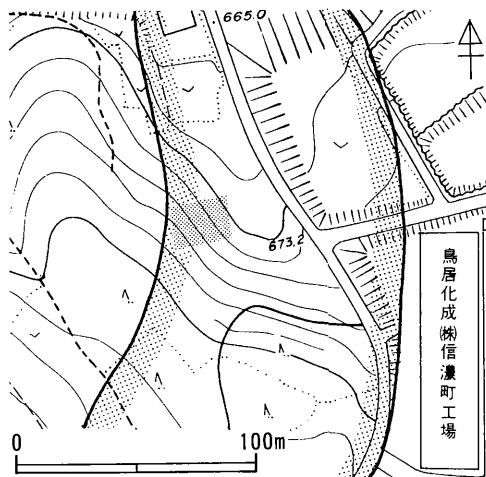


図19 向原遺跡の調査範囲

7 霊仙寺遺跡

平成14年8月に牟礼村からため池建設に伴う道路付け替えについて照会があったが、その際に開発予定地が霊仙寺遺跡の範囲内にあることを牟礼村に報告し、後日、

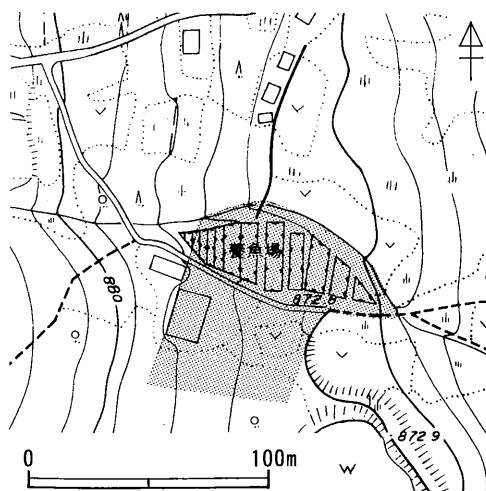


図20 霊仙寺遺跡の調査範囲

長野県教育委員会、牟礼村、信濃町教育委員会の三者による協議を実施した。協議では試掘調査で状況を把握することになり、11月に試掘調査を実施した。

調査の結果、遺物は3ヶ所から出土したが、住居跡などの遺構は検出できなかった。また、調査した道は霊仙寺の一の鳥居からの参道と考えられるが、道の遺構は検出できなかった。霊仙寺が繁栄していたとされる中世の遺物も出土しなかった。出土したのは土師器片であるが、小片のために時期の確定が難しく、概ね平安時代の所産と考えている。ほかに林地内のトレンチの1ヶ所で縄文土器が1点出土した。養魚場の埋立地はバックホーで掘削して状況を確認したが、1.5～2mにわたって埋め土がされており、遺跡が残っている可能性が低いと判断した。

こうした状況から、ため池建設を実施する際は、遺物が出土した地点を中心に発掘調査が必要と判断される。

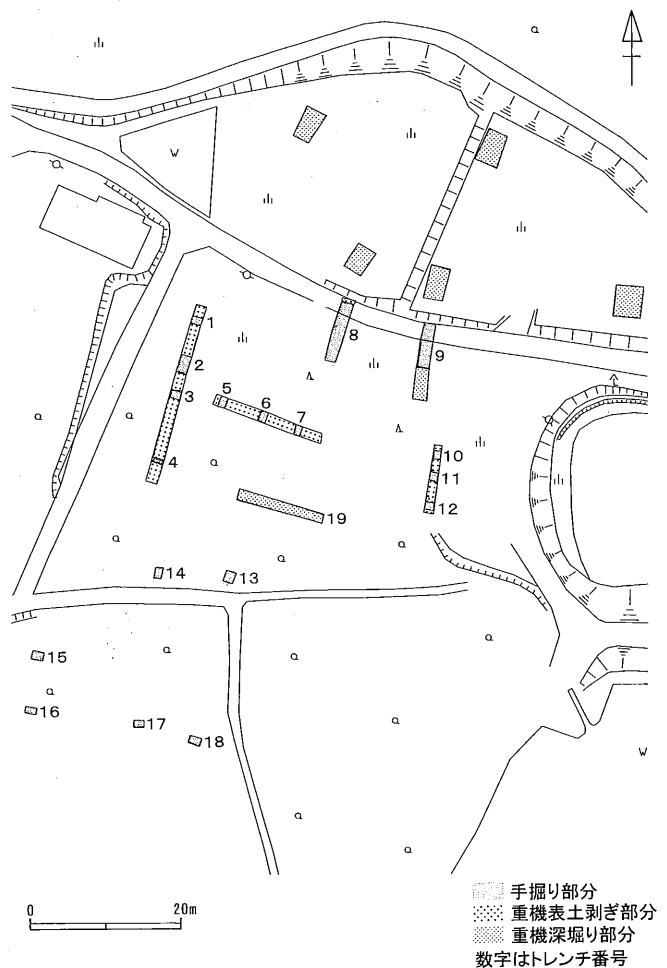


図21 霊仙寺遺跡のトレンチの位置

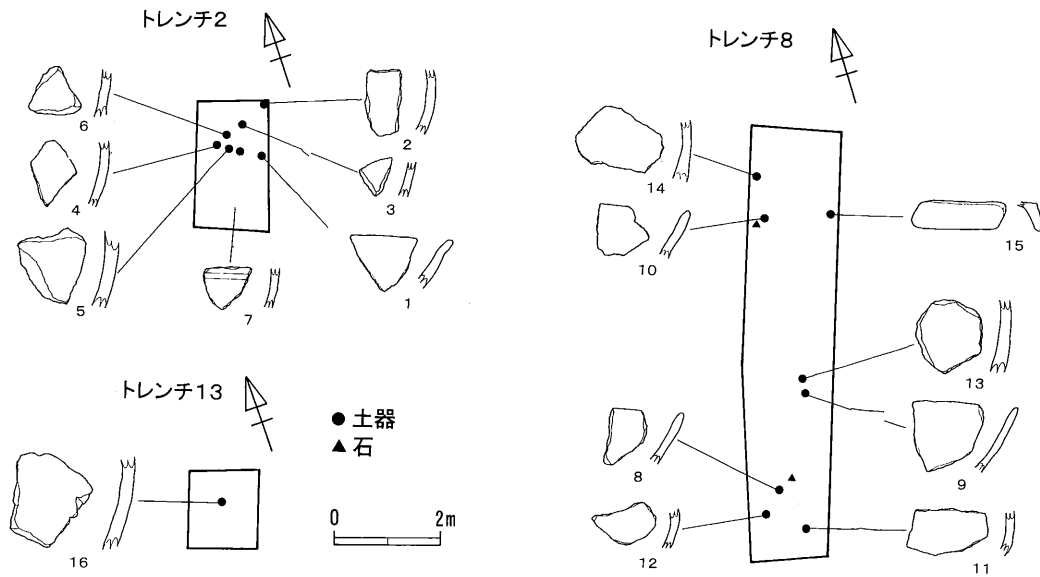
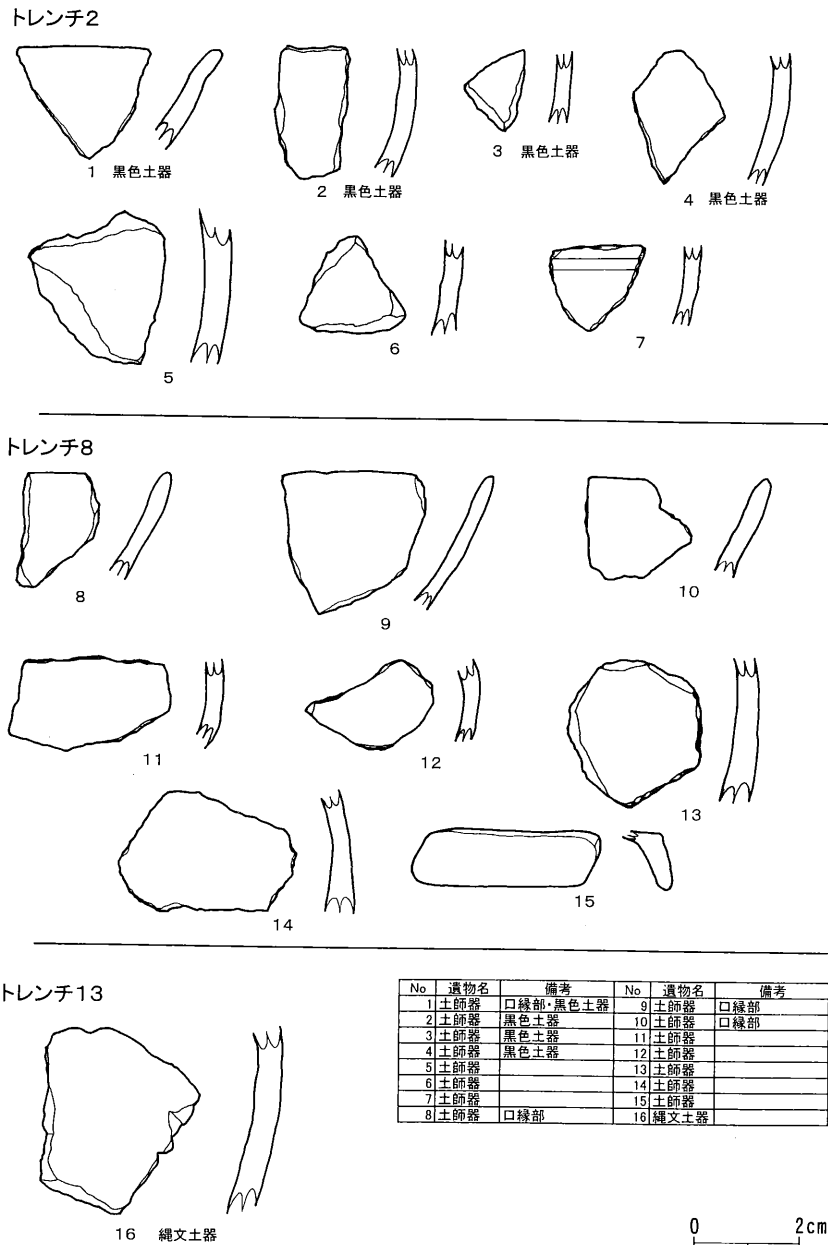


図22 霊仙寺遺跡の遺物分布



No	遺物名	備考	No	遺物名	備考
1	土師器	口縁部・黒色土器	9	土師器	口縁部
2	土師器	黒色土器	10	土師器	口縁部
3	土師器	黒色土器	11	土師器	口縁部
4	土師器	黒色土器	12	土師器	
5	土師器		13	土師器	
6	土師器		14	土師器	
7	土師器		15	土師器	
8	土師器	口縁部	16	縄文土器	

図23 霊仙寺遺跡の出土遺物

写真図版 1



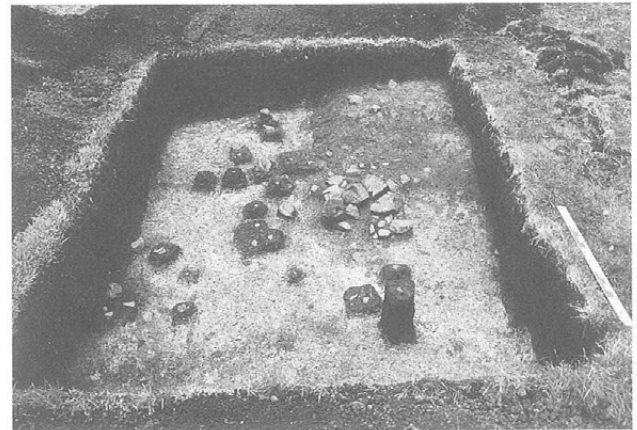
1. 川久保遺跡の調査風景



2. 照月台遺跡の調査風景



3. 狐久保遺跡トレンチ2の調査風景



4. 狐久保遺跡トレンチ2の遺物出土状況



5. 東裏遺跡の調査風景



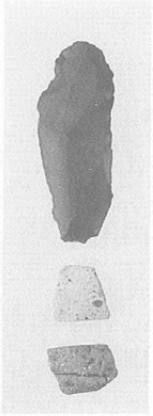
6. 東裏遺跡の遺物出土状況



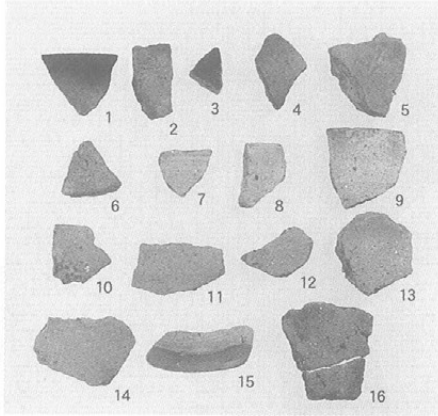
7. 霊仙寺遺跡の調査風景



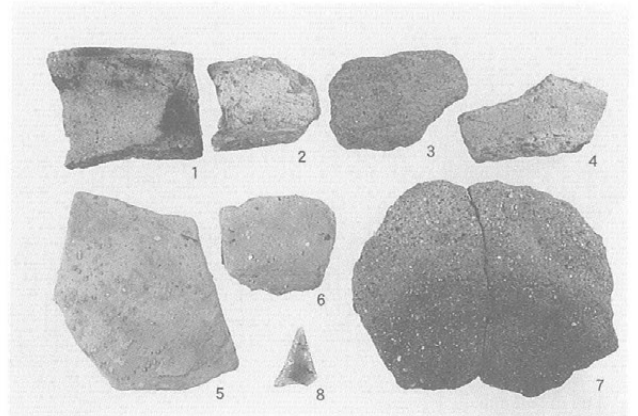
8. 霊仙寺遺跡の遺物出土状況



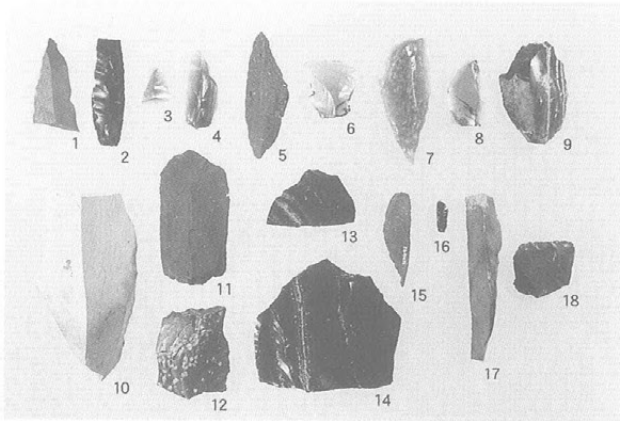
1. 川久保遺跡の遺物の遺物



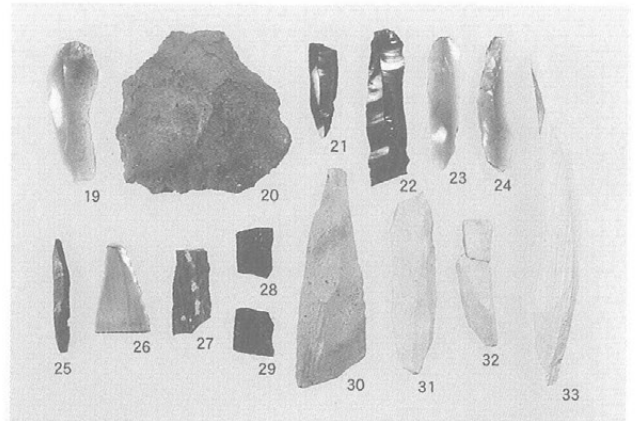
2. 霊仙寺遺跡の遺物の遺物



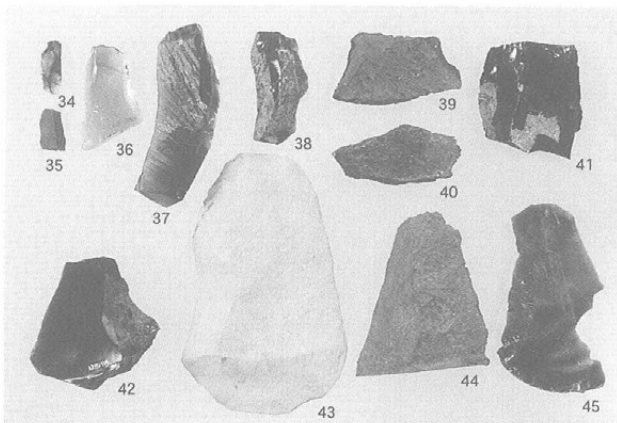
3. 狐久保遺跡の遺物の遺物



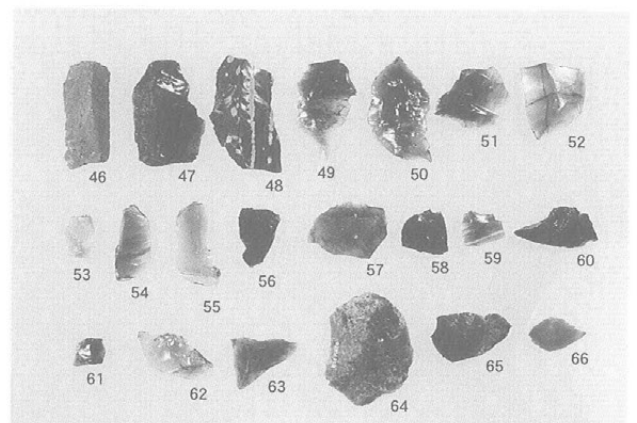
4. 東裏遺跡の遺物の遺物①



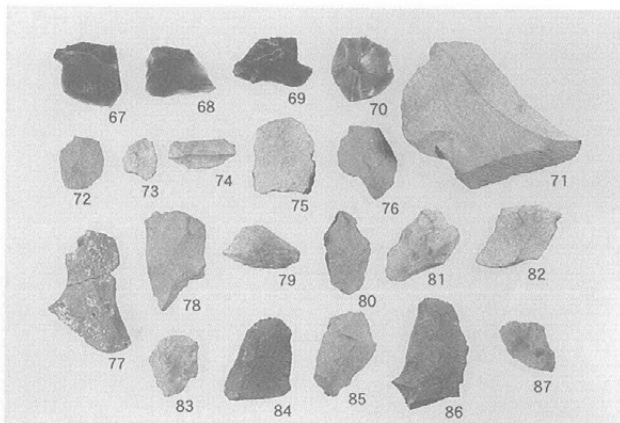
5. 東裏遺跡の遺物の遺物②



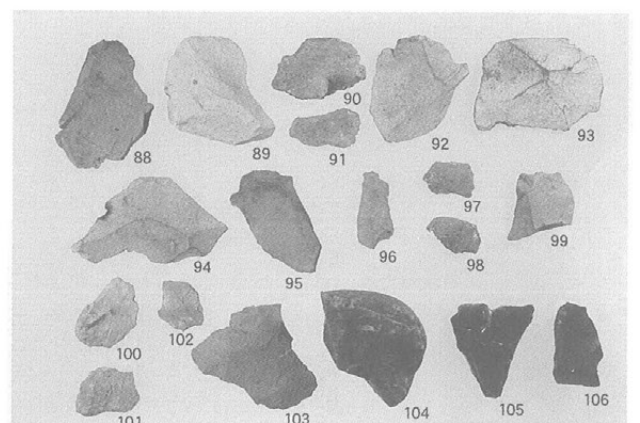
6. 東裏遺跡の遺物の遺物③



7. 東裏遺跡の遺物の遺物④



8. 東裏遺跡の遺物の遺物⑤



9. 東裏遺跡の遺物の遺物⑥

0 10 cm

報告書抄録

書名	平成14年度町内遺跡発掘調査報告書
副書名	
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	渡辺哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2 TEL: 026-255-5923
発行年月日	2003年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわくぼ 川久保	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざのじり 大字野尻916-3	205834	33	36度 50分 17秒	138度 12分 20秒	20021118 ～ 20021120	7.2 (工事面積36)	下水道管 敷設
しょうげっだい 照月台	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざのじり 大字野尻520-25	205834	46	36度 49分 38秒	138度 11分 44秒	20021002 ～ 20021003	8.5 (工事面積415)	住宅建設
きつねくぼ 狐久保	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざのじり 大字野尻371	205834	42	36度 49分 33秒	138度 12分 19秒	20020422 ～ 20020426	38 (工事面積4204)	住宅建設
ひがし 東 裏	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざかしわぼら 大字 柏原353-9ほか	205834	70	36度 48分 30秒	138度 12分 20秒	20020514 ～ 20020522	48 (工事面積541)	住宅建設
にのくらえー 仁之倉A	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざかしわぼら 大字 柏原4388-1	205834	78	36度 47分 44秒	138度 10分 51秒	20021004	工事面積 236	工場建設
むこう 向 原	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざひらおか 大字平岡223-1ほか	205834	144	36度 47分 13秒	138度 12分 32秒	20021023	工事面積 269	介護予防 施設建設
りょうぜんじ 靈 仙寺	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざおおい 大字大井2861-2ほか	205834	164	36度 44分 54秒	138度 10分 31秒	20021105 ～ 20021120	186 (工事面積約5000)	ため池 建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
川久保	散布地	旧石器時代 平安時代		石器 土師器など 43点	
照月台	散布地			出土品なし	
狐久保	散布地	弥生時代 近 世		弥生土器 磁器など 103点	
東 裏	散布地	旧石器時代 近 世		ナイフ形石器 土器など 264点	神山型彫器を含む石器群を確認
仁之倉A	散布地			出土品なし	
向 原	散布地			出土品なし	
靈仙寺	寺 跡	縄文時代 平安時代		縄文土器 土師器など 18点	

平成14年度町内遺跡発掘調査報告書

発行 平成15年(2003)3月20日
 発行者 信濃町教育委員会
 〒389-1305
 長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2
 TEL 026-255-5923
 印刷 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037
 長野県長野市西和田470
 TEL 026-243-2105

